

平和な世界のためにできることは何か ～「戦争のジレンマ」ロールプレイング

【実践者】

氏名	渡部 真奈美	学校名	福島県立あさか開成高等学校
担当教科等	国語科	対象学年（人数）	2 学年次（26 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2023 年 11 月 ～ 12 月（13 時間）		

【実践概要】

1. 単元(活動)名 平和な世界とは ～戦争と文学から考える		
2. 単元目標 (1) 内容や構成、展開、場面設定などを的確に捉え、内容を理解し、解釈を深めることができる。 (2) 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、平和に対する考えを深めている。 (3) 相手の同意や共感が得られるように、内容や言葉を選び、自分の思いや考えが伝わるような話の構成や表現を工夫することができる。 (4) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 関連する学習指導要領上の目標： (1) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (2) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
3. 単元の評価規準	①知識及び技能	文体の特徴や表現の技法を理解している。
	②思考力、判断力、表現力等	「読むこと」において内容や構成、展開、場面設定や描写のしかた、表現の特色などを的確に捉え、内容を理解し、解釈を深めている。作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、平和に対する考えを深めている。 「書くこと」において、相手の同意や共感が得られるように、内容や言葉を選び、自分の思いや考えが伝わるような話の構成や表現を工夫することができる。
	③主体的に学習に取り組む態度	相手の同意を得られるよう、粘り強く、内容や言葉を選び、自分の思いや考えが伝わるような表現を考える中で、今までの学習を調整しようとしている。

4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 戦争をテーマとした文学作品の読解に合わせ、本研修で学んだモザンビークで得た見識を生かしたオリジナルの「国民カード」を用いたロールプレイングを行うことで、「平和」について深く考え、平和で民主的な国家及び社会の形成者としての自覚を醸成する。 【単元の意義】 さまざまな戦争をテーマとした文学作品と戦争のジレンマロールプレイングを通して、「言葉の持つ力」について体感的に理解できる。そして、その経験が、生涯にわたって「平和な社会のために自分にできること」を考え続けるきっかけとなると考える。 【生徒観】 生徒は、国際科学科の2年生であり、入学から今日まで、教科横断的に地球的課題であるSDGsや国際に関する様々なテーマについて学んでいる。世界の戦争・紛争については、1年次の「歴史総合」で学んではいるが、あまり詳しくは触れていないと担当者から聞いている。 【教材観】 今回取り上げる作品は、いずれも「どうして戦争をしてはいけないのか」という問いを喚起するものである。国や民族としてではなく、一人の人間（個人）として、戦争を追体験的に理解することが必要である。「やっぱり戦争はいけない」という安易な結論に至ることを急がず、言葉ではすくい取ることはできない感情があることを実感させたい。今回の学びを、他科目や学校教育全体の学びにつなげ、実際の行動へと導いていきたい。 【指導観】 戦争の悲惨さと平和の尊さを忘れてはいけない。「戦争＝過去の過ち＝もう二度としてはいけない」という強い決意は私たちが誇るべきことである。しかし、その思考のステレオタイプ化は、今戦争の渦中にある人への想像力を鈍らせてはいないだろうか。「平和教育」というと、「平和は大切」「戦争はいけない」という安易な結論になりがちである。しかし、それでは、いつまでも「他人事」である。安易な結論に至ることがないように、今回は補足的に「最悪の平和と最善の戦争」という思考実験を行う。そのジレンマの中で、問題解決の難しさとそれでもなお「平和を希求」することの大切さを考え続ける契機としたい。また、侵略者（アメリカ人）を殺すために銃を買うことを純粋に求める少年アフメドをいかに説得できるか、そもそも戦争を過ちと認識している我々と戦争を過ちだと認識していない人たちの間で対話は成り立つのか。暴力には暴力で応酬するしかないと思いついていて人たちに「戦争はいけない」と説得できるだろうか。「言葉」で人の心を動かすことの難しさを感じながらも、粘り強く「言葉」で説得することの必要性を感じてほしい。そして、「解釈の多様性」を認めることが「他者理解」の前提となることに気づいてほしい。今回の学習で、「平和」の尊さ、「平和」のための「言葉の力（価値）」に気づき、今後の国語の学習のモチベーション向上につなげていけるよう指導したい。
--	--

5. 単元計画（全 13 時間）

	『小单元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1	『Mozambique e maningue nice!』 ・モザンビークの歴史・文化・生活・課題について知る。 ・「平和」が基盤となっていることを知る。	・モザンビークに関するスライドを見て、気づいたことを発表する。 ・日本との共通点や相違点について話し合う。	【資料 1】 スライド① 【動画 1】
2	『平和とは何か？』 ・「平和」「なぜ戦争はなくなるのか」について考え、現代の戦争について理解を深める。	・「平和」「なぜ戦争はなくなるのか」について、グループで発表する。 ・現代の戦争について調べまとめ、発表する。 （モザンビーク内戦・イラク戦争・ベトナム戦争・ルワンダ内紛・パレスチナ問題）	
3～7	小説『バグダッドの靴磨き』 「アフメドが銃で人殺しをするのを思いとどまるように説得しよう」 ・「共感的理解」のための正確な読解と、どのように説得すればよいか考えることを通して、言葉の力について理解を深める。	・「共感的理解」のための正確な読解 ・どのように説得すればよいか考え、発表する。	【資料 2】 ワークシート①
8	詩『死んだ男の残したものは』 ・ベトナムの平和を願う反戦詩として書かれた背景を踏まえ、作品に託された思いを読み取る。	・作品に託された思いを読み取る。 ・歌を聞き、感想を発表する。	
9	詩『春ーイラクの少女シャミラに』 ・対比的に配置された詩の構造を理解し、現代の戦争を描いた表現上の工夫を読み取る。	・表現上の特徴や詩に込められた思いを読み取る。	
10 11 本時	『戦争のジレンマワークショップ～最悪の平和か？最善の戦争か？』 ・ロールプレイングを通して、多様な視点から戦争について、考えを深める。	・ロールプレイングをする。	【資料 3】 ワークシート② 【資料 4】 国民カード
12 13	『平和のためにできることは何か考える』 ・平和とは何か考え、「平和のために私ができること」を宣言することを通して、平	・「平和」とは何か、自分の考えをまとめ、発表する。	【動画 2】 「平和とは」 【動画 3】

	和な社会のために行動することの大切さについて考えを深める。	・「平和へのメッセージ」と戦争のつくりかた」の動画を見て、考えたことを発表する。 ・「平和」のメッセージを表現する。 ・「平和のために私ができること」を宣言する。	「戦争のつくりかた」(7分) 【資料6】ワークシート③
--	--------------------------------------	--	---

6. 本時の展開 (11時間目)

本時のねらい：

「最悪な平和」と「最善の戦争」のどちらを選択するかという決断を通して、めざすべき「世界のありかた」について考えを深める。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	1 前時までの内容を振り返り、本時のねらいを把握する。	◇究極の選択をすること、必ずどちらかを選ぶこと、第3の選択肢をつくらないう促す。どちらの答えを選んでも間違いではないことを強調する。 ◇「独立国あさか開成国」の大統領として、この国のために責任を持って選択するよう促す。	【資料3】ワークシート② 【資料4】国民カード 【資料5】スライド②
独立国「あさか開成国」の大統領として、「最悪の平和」のままか、「最善の戦争」を決断するか、ホンキで考えよう！			
展開 (35分)	2 それぞれの国民カードに従って発表する。(なりきって台詞を読む。) 3 国民集会で、「戦争するか」「戦争しないか」それぞれの立場で意見を出す。	◇発表は、恥ずかしがらず、国民が置かれている状況が伝わるように工夫するよう助言する。 ◇そのキャラクターなら、どのような意見を述べるか、理由をしっかりと述べるように促す。 ◆国民の状況を理解し、見ている人に伝わるように表現を工夫している。【思】(観察) A：国民の状況を踏まえて、自分なりの工夫を加え、表現している。 C：国民の状況を踏まえて、理由まで述べられるように支援する。恥ずかしがって中途半端な発表にならないように全体の雰囲気を良好に保つ。	

まとめ (10分)	4 国民集会を踏まえ、大統領として、「最悪の平和」と「最善の戦争」のどちらを選ぶか判断する。 5 教師の説明を聞く。	◇必ずどちらかを選ぶこと。なぜそう考えたのか、国の状況だけでなく国民の状況も配慮して決断するよう促す。 ◇正解がわからない中、究極の決断をするためにはさまざまな視点が必要であることを助言する。 ◇国民カードの「⑫隣国境界に住む住民」以外は、「モザンビークのリアル」であることを伝える。世界のことを自分事として考えることの大切さを伝える。 ◇「国際法」である「武力不行使原則」で戦争は禁止されていることを伝える。	
----------------------	--	---	--

7. 本時の振り返り

生徒は、これまで国語の授業でロールプレイングをしたことがなく、本授業で初めて取り組んだ。普段から、おとなしい生徒が多い講座のため、初めの発言の後の自由討論において、「国民集会」としての議論が成り立つか不安だった。しかし、実際に授業を行うと、立場がはっきりしている「軍の責任者」と貧しくはあるが、今の生活に幸せを感じている「国民」役を中心に、激しく議論する姿が見られ、大いに盛り上がった。驚いたのは、普段の授業の中では、自分から発言することがない生徒が活発に意見を述べていた姿である。普段おとなしい生徒でも発言できたのは、ロールプレイングによる効果だと考えられる。また、すべての生徒に、「必ず1回以上は発言するように」と、半ば強制的に発言を促したことで、すべての生徒、役割の発言が2回以上あり、さまざまな立場の人がいることやそれぞれの立場による考えの違いの理解につながった。すべての生徒がお互いの様子が見られるように、机を「コの字型」に並べ、机の前に国民カードの役割の表示を作ったことも、さまざまな立場の国民の理解に役立ったと考えられる。

最後に「大統領」として、「最悪の平和」か「最善の戦争」の選択をさせたことについては、再考の余地があると考えている。今回の授業では、最終的に半分の生徒が、「大統領」として、「最善の戦争」を選ぶ結果となった。生徒によっては、自分の「国民カード」の役割に寄った選択をしたり、「国民集会」での話し合いを十分に理解できないまま、選択したりしていたので、もう少し時間をかける必要があったと感じた。

しかし、ロールプレイングによって、生徒にとってなじみのない環境や人物の具体的な理解を深め、またその人々へ感情移入することができるので、授業という限られた時間の中で効率的に学び、感じる



写真1 国民集会の様子



写真2 机の配置（コの字型）

ことができることを実感した。また、強制的にアウトプットすることになるので、普段自分の考えを発言できない生徒にとっては、発言しやすい環境であることも分かった。

8. 学習方法及び外部との連携

「平和」についての授業をするにあたって、学校全体での取り組み「SDGs Week～平和と戦争について考える」(11月)に時期を合わせたことで、生徒は国語の授業以外でも、多面的多層的に「平和」について考え深めることができた。(この期間は、他の授業でも、可能な範囲で「平和」をテーマにした授業を行っていただいている。)

学校全体での取り組みとしては、

- ①「長崎原爆パネル展」(パネル展示とDVD鑑賞)
- ②「長崎原爆語り部講話」(希望者参加、放課後実施)
- ③「マリールイズさん講演会」
(「ルワンダの教育を考える会」永遠瑠マリールイズさんとルーシーさん、全校生対象)
- ④「福島震災語り部講話」(希望者参加、放課後実施)
- ⑤「ウクライナ避難民支援募金」と「平和へのメッセージ」(有志企画)

学校全体で「平和」について考え、学ぶ期間を設けることで、「平和」への意識を高めることができる。さらに、「平和」のために行動したい生徒の活動の場を作ることもつながった。この期間、お昼休み時間に国際交流委員が選んだ「平和」をテーマにした曲の紹介と平和へのメッセージも効果的だった。

なお、「長崎原爆パネル」「長崎原爆DVD」は、長崎平和推進協会から、無料で借りることができる。「長崎原爆語り部講話」も長崎原爆死没者追悼平和祈念館の「被爆体験伝承者等派遣事業」で申請すれば、無料で派遣してもらえる。



【写真3】長崎原爆DVDを鑑賞



【写真4】長崎原爆パネル展の様子

9. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

①「モザンビークオンライン交流」を7月と10月に2回実施した。併せて、生徒48名と教員6名が参加した。

モザンビーク研修前に、SNSでJICA協力隊モザンビーク派遣隊員に直接依頼し、日本とモザンビークをインターネットで繋いで、協力隊の活動と現地での生活についてのお話やリアルタイムでモザンビークの生活の様子を伝えていただいたことで、参加者は遠く離れたアフリカ、モザンビークの生活や人々の現状を知ることができ、どこか遠い存在のアフリカの国、モザンビークに親しみを感ずることができた。また、現地の人々とも交流させていただくことで、



【写真5】第1回モザンビークオンライン

本やインターネットの情報では知りえないリアルなモザンビークの様子も知ることができた。さらに、参加した生徒達は、8月の私のモザンビーク渡航に間に合わせて「エコたわし」と「メッセージカード」を作成した。8月のモザンビーク研修の時に、持っていく、直接現地の協力隊や出会った現地校の先生方にお渡しすることができた。後日、私が現地でアクリルたわしを渡す様子や協力隊の方が現地の人々に渡す様子を動画や写真に撮影してくださったものを見た生徒達は、大喜びだった。自分たちとモザンビークとのつながりを強く感じることができたようだ。



【写真6】オンライン交流で質問する生徒



【写真7】エコたわしとカード作成

(生徒の感想より)

- ・実際に現地の様子を画面越しに見ることができ、日本人よりもモザンビークの人々はフレンドリーに接してくれて驚きました。また、金田先生のお話の中で、お金を貸したら帰ってくることは少ないことや、集合時間に間に合うことはほぼないことなど、現地にいないと知ることが出来ないお話を知ることが出来て、とてもいい経験ができました。

- ・参加しなければ気付かないこと、考えもしなかったことが沢山ありました。これからも様々な人も交流して視野を広げ、最終的に問題解決に繋げていきたいです。

- ・実際に行ってみないと見ることが出来ない景色がそこにはあることを知らされた。自分も将来 JICA の仕事に携わりたいです。Te amo !

2 回目のオンライン交流では、モザンビークの主食「シマ」を作ることに挑戦した。モザンビークにいる隊員から、画面越しに作り方を教えていただき、モザンビークの食文化やインフラ事情についての理解が深まった。



【写真8】第2回モザンビークオンライン



【写真9】シマを作る生徒たち

モザンビークオンライン交流に合わせ、モザンビーク研修で経験したことを生徒と教員に伝えることができた。

（生徒の感想より）

・夏にもオンライン交流に参加し、少し知識はあると思っていたが、まだまだ知らないことがたくさんあったし、気になっていたシマを実際に作り、食べることができて貴重な体験だった。モザンビークではもっと固いシマを食べているようだ。小さい鍋で作るだけでも大変だった。力がとても必要なことを実感できた。私たちは、動物の肉を食べているけど、食べられる状態のものしか見たことがない。金田先生が自分で鶏をさばいていることに驚いた。考えてみればあたりまえのことだが、私たちはきれいな部分しか見ていない。私たちは食べるときに、いただく命に感謝しなければならないと感じた。

・先生がモザンビークで見た景色を自分もいつか見てみたいと思った。これからの社会は、多様な世界人々とともにつくっていかなければならない。そのためにも、自分の見ている世界を広げ、文化の違いや価値観の違いを超えて理解しあえる関係を世界の人々とつくっていききたい。

② 11月「国際理解交流発表会」（全校生徒対象・学校行事）でモザンビークコーナーを設置し、モザンビークについて全校生徒、教職員、保護者に伝えた。



【写真10】モザンビークコーナー



【写真11】展示を見る生徒の様子

③ 12月「2023事業総括セミナー」（With The World 主催）で「TAKE ACTION! 世界のリアルと自分ごとに～英語科以外の先生でもできる国際交流」と題して、オンライン交流を中心に学校で取り組んでいる国際理解教育について、参加した中学、高校、大学の先生に向けて発表した。

【自己評価】

10. 成果	「平和」について、きれいごとではなく、「頭がぐちゃぐちゃになる」「心がぐらぐらと揺さぶられる」授業を目指した。戦争がなくならない世界の状況や戦争をテーマとした小説や詩から、戦争したくなくても巻き込まれる人々がいること、戦争による憎しみがテロリストを生んでいること、「平和」を求めて戦争する人々がいること、原爆の悲惨さ、しかしその日本もかつては戦争を主導し他国を支配していたことなど、戦争をさまざまな見方からとらえ、戦争をなくすためにはどうすればよいか考え、その難しさを感じながらも、戦争のない社会を作るためにどうすればよいか考え続ける、言葉で伝えようと努力し続ける生徒になってほしいという願いをもって授業を実践した。最後に生徒が提出した感想を読んで、その思いは伝わったと感じた。 これからの人生において、テロリストのニュースを見たときに「アフメド」を思い出したり、戦争の報道を聞いたときに、その国に住むささやかな平和を願う「国民」を思ったり、街路樹の枝が切り落とされている様子を見たときに、戦争で腕を失った「イラクの少女シャミラ」を思い出したりする生徒が一人でも多くいてくれたら、この授業の成果だと思う。
11. 課題	「最悪の平和か最善の戦争か」究極の選択をすることで、表面的ではない理解や選択をする中で感じるジレンマ（葛藤）を感じる中で、平和な日本に住む生徒にとって「他人ごと」と感じる「戦争」を「自分ごと」として考えることを狙ったのだが、そこに「モザンビーク」の現状を入れ込んだことで、「国民カード」の持つ情報量が多くなりすぎてしまったことが1つ目の反省点である。 もう1つは、最後に「大統領」としての判断をさせたこと。ロールプレイングをしてすぐに決断させたことは、性急過ぎて失敗だった。事後研修でアドバイスいただいた中にあったように、国民集会の中に「大統領」役を作って判断させたり、次の時間に考えを整理させた後で判断させ、その理由を聞いてディスカッションしたりしたほうがよかったと感じた。
12. 改善点	「国民カード」に書かれた内容をもう少し整理する。 「大統領」としての判断は、次の時間にするか、「大統領」の役割を新たに作るか検討したい。
13. 学びの軌跡 （児童生徒の反応・変化、感想文、作文、ノートなど）	最初の授業で「最悪の平和」か「最善の戦争」を選択した際は、 「最悪の平和」が 8 名、「最善の戦争」が 18 名 本時の終わりに選択した際は、「最悪の平和」が 13 名、「最悪の戦争」が 13 名 すべての授業後の選択では、「最悪の平和」が 14 名、「最悪の戦争」が 12 名だった。 最初に「最悪の平和」を選択した生徒は、1 名を除き、最後まで「最悪の平和」を選択し、最初に「最善の戦争」を選択した生徒 18 名のうち、6 名は最後に「最悪の平和」を選択し、12 名は最後まで「最善の戦争」を選択したという結果であった。 さらに、生徒が記入したワークシートを見ると、生徒が悩みに悩み、心が揺さぶられながら、苦渋の決断をした姿や悩みながらも最後まで「平和」を希求し続けた姿が見られた。

自分の意見を押しつける必要はない。むしろ決める立場にない立場にいたるとして
人々の意見、自分の反対意見を聞くことが大切だと自分も思った。
今回の下関抗争の戦争一相だと私自身も思っていたが、今の生活が、
幸せという言葉を聞いて、自分の考えがゆるんだ気がする。

シュルトンの最後の文に「お腹」は、いれたいな、と書いていて、
他国の言語でどうするか話していた。川瀬富江は、国内でも
経済面での差が開いていて、つつの生活は、基準に当てはまら
ないから、いえることが少ない。たいてい、戦争の前、国内のバラン
スが正しく、金が基準に入ることが多い。

↑ 生活の基盤を整えることが、「平和」のためには重要だと気づいた生徒

[illegible]

↑「絶対に戦争反対」から「戦争をするしかない状況もある」と大きく心が揺れた先に、「やっぱり戦争はすべきではない」と決断するも、「解決の難しさ」を感じ、どうすべきか、貧困問題も併せて、考え続けている生徒。

短い時間にもかかわらず、多くの生徒が、A4の用紙いっぱい、自分の思いや考えを書いてくれた。「解決は簡単ではない。」それでも、みんなが「平和」な社会に暮らすことができるように、これからも考え、行動する。そんな気迫を感じる感想ばかりだった。

14. 授業者による
自由記述

人生初のアフリカ、モザンビークだった。これまで、幾度となくアジアの国々を旅してきたこともあり、渡航自体はそれほど心配していなかったのだが、行ってみると、これまでの旅行では感じたことがない感情があふれる研修であった。

一番強く感じたことは、「平和と公正」についてだ。モザンビークで出会った汚職警官の存在に、日本の社会がいかに信頼できる警察に守られているかを強く実感した。また、小学校を卒業できない理由の一つに、早期結婚や妊娠があり、その相手は学校の先生の場合もあることや特別支援や介護の分野では体罰が横行していることなどを耳にし、暴力のない「公正な社会」を作る大切さを感じた。戦争や紛争のない社会、そして治安を守り、国民の生活を守る警察や公的な職業の倫理観の醸成の重要性を強く感じた。

さらに、時間や約束についての感覚の違いにも驚いた。約束した時間に現れないのも当たり前という話をよく聞いたし、実際研修中にも遭遇した。私たちが当たり前だと感じていることの多くが、モザンビークでは当たり前ではないことを感じた。

一方で、モザンビークの人たちは、私たち日本人よりも家族との時間を大切にしている。お金を稼ぐために仕事に追われ、家族の時間が減るよりも、稼ぎの少ない自営業を選ぶ理由は、ゆったりと家族と一緒に過ごすため。「幸せ」とは何か、考えさせられた。他にも、たくさんの文化や価値観の違いを感じた。頭で理解していることと

	は別の感覚的、感情的な部分も含め、多くのものを得ることができた。 この体験を、どうしたら生徒や教育に還元できるか。考えた末にたどり着いた授業が、「平和」に関するロールプレイングの授業と、モザンビークで得たつながり（ご縁）による「モザンビークオンライン交流」だった。 「オンライン交流」は、これまでも、ベトナム、マラウイ、フィリピン、インドネシア、ザンビア、タイなどさまざまな国と行ってきたが、その国に住む人とリアルタイムで交流できる体験は、生徒にとって、その国をととても近しく感じ、「自分ごと化」のきっかけになるという点でとても有効だ。また、交流で得た現地のリアルは、本やインターネットでは得られない貴重な情報である。今回は、モザンビーク研修に行く前と行った後の2回も実施することができ、生徒にとっても私にとっても大変貴重な経験となった。協力してくださった金田隊員に大変感謝している。また、写真や動画、生徒へのメッセージ、シマの粉やカプラナ、ニンニクをつぶす道具を生徒のために準備してくださった木村隊員にも感謝の気持ちを伝えたい。 その他にも、モザンビークでお会いしたJICA関係者、協力隊の方々との出会いにも大変感謝している。少ない滞在にもかかわらず、多くの学びを得ることができたのも、私たち研修生のために調整や準備をしてくださったおかげである。協力隊含め、モザンビークに住む方々との交流させていただいたことで、多くの学びを得ることができた。そして、研修を一緒に過ごし、学び、笑い、たくさん話をして、笑顔で過ごした仲間の存在。東北に、世界に、同じ志を持つ仲間ができたことが、今回の研修の一番の成果だ。 「ロールプレイング」の授業については、まだまだ改善の余地があるので、今後手を加えながら実施していく中で、一つの教材として完成していきたい。もし、実践にご協力いただける方がいたら、ご連絡いただきたい。この教材をきっかけに、国際理解教育を推進する仲間とつながることができたら、この上ない喜びである。
--	--

参考資料：

（参考資料）

- ・最悪な平和と最善の戦争、どちらを選ぶべきか？岡田斗司夫が中学生に投げかけた問いがエグい…あなたには答えられますか【戦争と平和】（サイコパスおじさん【岡田斗司夫 切り抜き】チャンネル）
- ・直言（2023年6月5日）「最悪の平和はどんな戦争よりもましだ」——「独ソ戦」化する「ウクライナ戦争」（asaho.com）

（映像資料）

- ・【動画1】避難先も攻撃 森に逃げるしかない——モザンビーク北部でいま何が起きているのか【国境なき医師団】 <https://youtu.be/zah8Zlus-EY>
- ・【動画2】あなたにとっての平和とは？ザタリ難民キャンプの子どもたちの声 / 日本ユニセフ協会 <https://youtu.be/2KoNnidU680>
- ・【動画3】「戦争のつくりかた」アニメーションプロジェクト-What Happens Before War?- <https://youtu.be/cUGu73hnjdY>

（文献）

- ・水谷章(2017)『モザンビークの誕生—サハラ以南のアフリカの実験』花伝社.

- ・椿進(2021)『超加速経済アフリカ』東洋経済新報社.
- ・野澤亘伸(2020)『この世界を知るための大事な質問』宝島社.
- ・小川真吾(2012)『ぼくらのアフリカに戦争がなくなるのはなぜ?』合同出版株式会社.
- ・永井陽右(2017)『ぼくは13歳、任務は自爆テロ。テロと紛争をなくすために必要なこと』合同出版株式会社.
- ・石井竜也・広河隆一(2004)『子どもに伝えるイラク戦争』株式会社小学館(添付資料)

【資料1】スライド「モザンビーキエマニンギナイス!」【資料2】WS「バグダッドの靴磨き」(一部)



3 △「靴磨き」の経験

バグダッド・シールと名乗って「靴磨き」の経験をしたことがある人は、ここに記入しよう。

「靴磨き」の経験をした人は、靴磨きをした場所や靴磨きをした人、靴磨きをした理由、靴磨きをした結果、靴磨きをした感想などをここに記入しよう。

靴磨きをした場所や靴磨きをした人、靴磨きをした理由、靴磨きをした結果、靴磨きをした感想などをここに記入しよう。

靴磨きをした場所や靴磨きをした人、靴磨きをした理由、靴磨きをした結果、靴磨きをした感想などをここに記入しよう。

靴磨きをした場所や靴磨きをした人、靴磨きをした理由、靴磨きをした結果、靴磨きをした感想などをここに記入しよう。

【資料3】WS独立国あさか開成国

「平和な世界のためにできることはなにか」 2年()組()番()

独立国「あさか開成国」の大統領として、国のために、「最悪の平和」と「最悪の戦争(やむを得ない戦争)」のどちらを選択するか、決断しよう!

Before・・・

私は、大統領として()を決断する!

理由は、()

国民の声を聞いてみよう!

私は、()の立場で発言する。

POINT・・・

だから私は、(最悪の平和 ・ 最悪の戦争)を決断してほしい。

(MEMO)

After→私は、大統領として()を決断する!

理由は、()

(感想)

自己評価: 主体性・積極性(A・B・C) 協働性(A・B・C) 自分事(A・B・C)

【資料4】国民カード(一部)

国民カード

④ 都市の生活(シエルトンくん、小学校4年生)

僕はシエルトン、小学4年生。お父さん、お母さんと2人のお兄ちゃんと暮らしているんだ。

でも、お父さんは仕事をクビになっちゃって・・・それで今は、路上で靴を売って生計を立てているけど、なかなかうまくいかないみたい。お母さんは病院になって家で寝ている。無料の病院に行っても、薬の在庫がないから、薬がもらえないんだ。まじないどか薬草の方が強くなるから、連れて行ってあげたいんだけど、お金がないから・・・

だから、僕たち兄弟3人で、近くの市場の食堂に行き、観光客相手に路上パフォーマンスをやっているんだ。そこで、チップをもらったり、物乞いしたりしてお金を稼いでいるよ。

学校に行きたいけど、お金を稼ぐ方が大事だから、今は行っていない。だから、実は学校も読めないんだ。

お願いいっぱいして飯食いたいな。

POINT・リストラで仕事がない。・病気だが、薬がない。

・児童労働 → 学校にいけない → 字が読めない。識字率60%

→ 経済状況は、()

医療状況は、()

教育は、()

生活への満足度・幸福度 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10

【資料5】スライド「戦争のジレンマ」(一部)

「戦争のジレンマ」

*必ずどちらかを選択してください。

*第三の答えはだめです。

あなたは日本と同じくらいの規模の国、独立国「あさか開成国」の大統領です。

大陸の真ん中にある国で、資源がなく、この30年、とても景気が悪い。失業者も多く、町には栄養失調の子どもたちがいる。これから先の見通しもないので、毎年2万人以上の自殺者が出ています。大統領であるあなたや大臣が、いろいろ考えても、どうにもできない状態です。

⇒「最悪の平和」

隣の国と戦争が起こりそう。
国境近くに、非常に価値のある地下資源が見つかった。
それさえ掘り出すことができれば、あっという間に国の経済問題は解決する。
ただし、国境付近のため、自分の国が掘っていいかどうか微妙な状態。隣の国とは長い間、仲が悪く、「共同開発」はできない。隣の国とは過去500年の間、何度も戦争している。そのたびに国境線が変わってきた。小さい戦争を繰り返すことで、国境問題を解決してきたのです。だから、戦争することで、地下資源を手に入れようとお互いに考えている。

軍の責任者いわく、「戦争すれば、最初の1年で、1万人の犠牲者がでる。その後戦争が続いたとしても、年間1000人くらいの犠牲者ですむ。80%の確率で勝てる。」つまり、地下資源を手に入れる確率が高い。と言うのです。

戦死者はでるが、戦争によって軍需産業、つまり仕事が生まれるので、失業者はほぼいなくなります。そして、50～100年くらいは景気がよくなるのです。

⇒ **「最善の戦争」**

これから、みなさんには、「あさか開成国の国民」になってもらって、「戦争」するかどうか、意見を述べてもらいます。

①国民カードにかいてある台詞を使って**ロールプレイング**
(それぞれの国民の立場を分析して、どのようなポイントで意見を述べるか、話し合しましょう)

②**それぞれの立場**で、自由に意見を述べる
(それぞれの立場になりきってくださいね。)

③国民の意見を踏まえ、**大統領として、決断する！**